

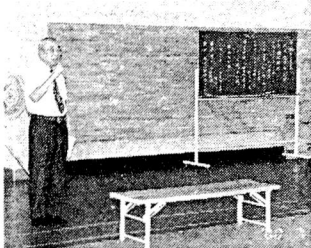


愛知県板金工業組合
発行 広報 委員会
名古屋市中区北山町
3-8-6 〒466-0006
電話 052-732-1226

平成十二年度

技能検定実技試験を実施する

七月二十三日(日) 建築板金(内外装)の実技試験が岡崎技術工学院にて実施され、五十三名(一級三十名、二級二十三名)が例年に無い酷暑のなかで受験した。



▲挨拶する村上理事長



▲作業する受験生



▲作品を測定する検査員

それぞれ三十分認められるが三分に一点減点される。

当日は例年になく暑く受験生諸君は頭からつま先まで汗びっしょりで大変だったと思う。スタートからつまづいた受験生、延長ギリギリまでかかった受験生もいた。提出した作品は正直なもので試験までにどれだけ練習したかにより作品に現われる。練習量が合格の秘訣ではないだろうか。

翌二十四日は昨日に続き井口先生の立ち会いのもと厳正な採点が行われ、結果は十月に発表され学科も含めた一級、二級の上位三名は十一月の技能検定合格伝達式のおり表彰

されます。
二日間にわたり井口先生はじめ役員、検定員、検定補助員の皆様暑いなか本場にこ苦勞さまでした。会場を設営された西三の方々に厚く御礼申し上げます。

★補助員の私が総評を述べるなどのもての他ですが我々の業界だけでなく基本は手作りであり経験の通過点に試験があるはずなのに、昨今には試験のための訓練の様な気がしてならない。技能検定試験は青年部の競技大会ではなく現場で通用させるための資格であることを再認識する必要性は受験生ではなく我々指導する人が認識すべきと思う。特に製図に関しては十分理解している人が教えるべきである。せっかくの素材を技能検定で潰しかねないことは罪とさえ思う。もうすぐ来る二十五年には八十万棟、六十五万棟しか建たない時代に技能検定は生き残るための原点とさえ思うのだが…… 東三 吉田

全国板金業国民健康保険組合 第六十二回 臨時組合会 創立三十周年 記念祝賀会

全板国保組合は七月十九日東京プリンスホテルに於いて第62回臨時組合会と創立30周年記念祝賀会を開催した。臨時組合会は午前十一時より理事、監事、組合会議員と各県支部長が出席して開会。

会長・理事長挨拶に続き平成十一年度の事業報告と収支決算の詳細が説明されたのち満場一致で承認された。

組合員の「命と健康」を守る国保事業は、年々整備充実が進んで順調に推移しているが特に昨今は高額医療費患者が続発していることから健康管理を重点にした助成金制度の利用と推進を計っている。また、収支内容によると十一年度は三億八千七百万円の

残高となったが十年度よりの繰越金が四億六千八百万円であったので、十一年度実質収支額は八千一百百万のマイナス決算となった。十二年度は繰越残高の額からインフルエ

ンザの万延や高額医療費、老人医療費が継続すると赤字決算が予測され保険料の値上げが心配されてくる。なお十二年三月三十一日現在国保加入県板数は四十六県板、組合員数は四〇、五六九人である。

ちなみに愛知県板金の加入者は二、〇七七人、全国第六位、加入率四九・八%である。組合会につき表彰状贈呈式を行ない、この十年間に功労のあった一二名の方々に表彰状が手渡された。愛知県



創立30周年記念表彰状 贈呈式の模様



平野 弘 前愛知県板理事長(右)
戸水 義雄 石川県板理事長(中央)
清田 寿雄 三重県板理事長(左)



祝賀会で歓談する国保担当事務局員
今枝由紀子さん(愛知県板中央)
龍口典子さん(石川県板左)
安藤かよさん(岐阜県板右)

板からは、平野前理事長と今枝由紀子国保担当事務局員が受賞した。

午後一時より「記念祝賀会」に移り、国会関係者、厚生省、東京都、国保連合会等の関係者を来賓に招き総勢三百余名の賑やかな祝宴が始まり全国各地から出席され久し振りの再会に話しも弾んでおおいに盛り上がった。

全板国保はそれまでの「日雇健保」が昭和四十五年制度廃止にともない昭和四十五年七月に愛知県で設立認可を受けて以後、紆余曲折を経て創立三十周年を迎える事となった。健保事業も組合員の減少、少子高齢化で新しい局面に对应する方策の転換期に向かいつつある。組合員従業員と家族全体の「健康・福祉」を守り通すため鋭意努力と保険制度の長期安定化が望まれる。(S) (全板新聞六・七月号参照)

委員会報告

厚生委員会

開催する

「今日の保障は明日への安心」

去る7月26日（水）、今年度第一回目の委員会の開催となった。今年度の方針は、豊かな活動を展開し、会員の方々に理解して頂ける委員会でありたいと決意を新たにスタートした次第。

尚、審議に先立ち、全板国保の組合会議員で更に県板の担当役員でもある吉田専務理事から全板国保総会・創立30周年記念式典の行事が催され、有意義であったとの報告を頂いた。

更に11年度の事業の収支内容によると、「少子高齢化」が徐々に浸透しつつある中、半面長期化されている不況、景気の動向が著しく不透明で、加入者の減少を防ぐ対策を講じなければならぬと思うのだが、世情の流れには逆らう事は出来ない、残念でならない。

●今回の提案議題

一、全板国保・年金基金への加入状況と本年度の推進の方策について

一、県板共済への加入勧誘について

一、其の他（新規国保加入者の特例について）

◎全板国保・全板年金基金については、毎回論じているが再度、委員により未加入者のリストアップにより、名簿の作成、対象者の抽出を図り、文書にて勧誘又は支部長を通じて説得をお願いする案、又他の健康保険団体及び市町村に加入している方々には、如何に全板国保が有利か、これらも相違点を理解して頂ける様なパンフレットを配布し理解と協力を求めたい。

◎全板国民年金基金は去る4月1日より若干改正されましたが、原則として政府管掌の国民年金に加入している事が条件となっている、（保険料未納の方は対象外）

基金加入は20才〜60才未満となるも若年者の加入が得策かも知、「ゆとりある老後を築くために」（夫妻で考えよ）

基金受取額、2・2倍以上掛金は全額所得控除年間300万円ゴールド年金プランも可能です。

◎更に県板独自の共済制度が発足して、はや10年の実績を保ち、労災の上乗せとして大変好評を得ているが、これらも高齢者並に後継者なき理由として、加入者も減少している現状である。共済制度は組合員の共有の資源であり、組合員は少なくとも一口でも加入することが、本来の務めではないだろうか、県板の懐には限界があり、組合活動を良く良く展開するためにご協力下さい。以上の如く委員会の総意により審議の結果を報告致します。

「追記」国民年金及厚生年金の番号は、一人に一つの番号が付与されており、一生この番号で統一されるもの、それらを基礎年金番号と称し、自営業又はサラリーマンなどで勤めた場合に於いても通用する番号です。国民年金は自動的に20才になると強制適用となるので、次に該当する方は保険料の追納の申請が受理され、認められます。即ち対象者は大学、短大及専門学校に在学している方で、保険料の支払いが困難な学生に對しての救済措置として市町村の窓口に出出て、認可を受ければ10年以内に返納することが出来ます。

厚生委員会
委員長 沼澤 啓二

第2回総務委員会報告

総務委員長 長谷川 信俊

総務委員会は平成十二年七月五日県板三階会議室で四月二十一日に次いで第二回目の総務委員会を開催した。

今回の審議事項は先の第三十五回総代会と記念式典及び全板神奈川大会の反省と今後の課題を審議した。

一、記念式典での役員表彰の規定を緩められないかとの質問があった。

愛知県板金工業組合の表彰規定は、愛知県の表彰規定を基準にしているため変更することは出来ない

二、来年度の総代会は平成十三年五月十五日に名古屋国際ホテルで開催予定。

三、第五十二回全板神奈川大会は総勢二百十五名の出席であったが、思わぬ東名高速の事故により到着

が大幅に遅れ大会に参加することが出来ず、展示会場の見学が四十分出来ただけであった。

大会参加が旅行一日目に合わせた事が無理であった事で来年の神戸大会で

は見直し検討を。

本年度事業計画

一、保証書発行をより推進するよう各支部長へFAXで依頼。五月現在百十件

二、保証関係講習会を九月二十四日（日）と二十六日（火）の二日間岡崎地域職業訓練センターで行う。

三、ソーラー発電講習会の計画。

十月一日（日）に愛知県中小企業センターで開催ポリング大会を開く。十一月十一日にシャンピアボウルで開催決定。以上、出席委員十六名

参加者募集

『産業技術記念館』と『トヨタ博物館』を見学

九月三日（日）締め切り八月二十日

名古屋板金連合会

展示してある。

トヨタ博物館はトヨタ自動車をはじめ外国の自動車を含めて自動車の歴史が分かりどの自動車も実際に走行できるように整備された自動車展示してある。

今回は、この二つの施設を見学することとしました。

今回の見学には青年部を始め小中学生や若い方々には是非見ていただきたい施設です。お子さま連れ、お孫さん連れで参加頂き楽しい一日をお

過ごし下さい。

日時 平成12年9月3日
午前9時45分 集合
午後5時頃解散予定

集合場所 名鉄メディアワン
参加費 大人一人 三千円
小中高生及び母親 一人千円

名阪近鉄観光バス二台使用
昼食付
申し込みは八月二十日まで
に、FAX〇五二一八九五一
六九五二まで

驚見

全板連『基幹技能者』育成

「富士教育訓練センター」で指導者の養成
愛知県板からは松代一郎氏と驚見 収氏が研修に参加
高柳副理事長が講師として教壇に立った。

建設省の「建設産業政策大綱」が平成 7 年 5 月に発表され、基幹技能者の育成の重要性が指摘された。

建設産業は「良い物をより安く」供給することが今後の課題であり、建設現場での品質、コスト、安全面での質の高い施工を実現できる優秀な人材の確保、育成、活用が必要になってきている。

このように今、建設産業に「基幹技能者」が求められていることから、建設産業全体では基幹技能者の育成を各業種ごとに組みが要請された。

全板連と日板協では建設省の指針である「基幹技能者の確保、育成、活用」に沿って平成十一年六月から基幹技能者の育成に取り組んでいる。

建築板金業界は従来「労務提供型」専門工事業であったが体質改善して「責任施工遂行型」への構造改善という指針を示した。

建築板金業界における「基幹技能者」の位置づけは「責任施工遂行型」の建築外装の施工を受け持つ自立した専門工事業界の中核の人材であり

「責任施工制度」における人材保証証書と言うことが出来る。

建築板金業界における「基幹技能者」となる資格要件は豊富な作業経験を積んでおり「二級技能士」で熟達した技能者であり、克つ「アーク溶接作業主任」「玉掛け技能講習修了者」「高所作業車運転技能講習修了者」の資格を得得している者で職長教育を受けた者である。

「基幹技能者」の役割とは工事現場における技術者と施工に携わる技能者の間に立つて技術者から示された施工計画、施工要領が円滑に実施されるように連絡・調整を行うと共に、技能者の取りまとめ役として技能者に対する適切な配置・作業方法・作業手順など安全基準を遵守した施工を指導し適切な作業管理を行うことである。

こうした役割が建設現場で効率的・効果的に発揮され技術者の役割と相まって工期管理・原価管理・品質管理・安全管理の面で勝れた工事施工が実施される。以上のように「基幹技能者」は一連の作業

の流れについて高度に処理する能力を有する者である。

責任施工を遂行するには三つの要件をこなす人材が求められる。「技能」「優秀な技能者・技術（施工管理）」「経営者の役割強化。つまり、建築板金業界における「基幹技能者」とは優れた技能と経験を有する事はもちろん板金施工及び周辺領域の技術知識を持ち、施工管理機能の一部をこなす事が期待される人材である。

愛知県板からは松代一郎氏が 6 日間の研修を受講し基幹技能者の養成講師となり驚見 収氏が基幹技能者となった。

また、愛知県板の高柳副理事長は「建築板金の材料」の講座で講師に立った。次回研修会は平成 13 年 2 月に行われる。

4 月からは欠陥住宅の排除を目的とした「住宅品質確保促進法」が施工された。同法は、建物の基本構造に欠陥があれば、新築後 10 年間、建築業者が無償補修しなければならない「10 年保証」を義務づけ、住宅の客観的な品質評価も導入する。新築住宅に通常使用で発生した主要構造部分の欠陥を施工業者が無償で修理しなければならない。雨漏りなども対象でより責任施工が問われる。

ネイティブアメリカン

歴史的には、二万五〇〇〇

三万年前に逆のぼる。アジアよりの移住といわれる。骨格の特徴から、かなりの変異が認められるが、モンゴロイド属といわれる。およそ一万五〇〇〇年の歳月をかけ、南北アメリカに広がっていった。アンデス、インカ、イヌイット等もその系列である。又、日本の先住民である、アイヌも同系であるという。言語も、一部族で話す言葉から、数部族で通用するものまで、数百種類あるといわれる。どれも単語の使い方が複雑で、難解であるという。そのため、第二次大戦で、アメリカ軍は、インディアンの言葉を暗号の代わりに使ったという。しかし現在では、北アメリカインディアンの子孫は、英語で生活する事が多く、いずれこれらの言葉は、なくなってしまうというのが大方の学者達の見方である。アメリカインディアンも、西部劇に出てくる様な、アパッチ、シャイアン、スーといった部族は、最も好戦的な人々として描かれていて、決して好戦的でなく、侵略してきた敵と戦ったという訳である。いわば防衛の戦いであった。

これら、ネイティブアメリカンも文字を持たないが、独

自の文化を発達させ、現在もその文化を大切に守り、継承している。そういった意味でも日本のアイヌと似たところがある。今、多くの国と、人々は、自国の古き、良き文化を捨て、先進の文明を取り入れていく中で、これは大変な勇氣と決断を要することであろう。現在、多くの人々が、世界中を旅し、今まで目にする事が出来なかった異文化を、直接目にし、耳で聞き、手で触れる事が出来る様になった。

だが、そういった人々の為に、伝承文化を生業にしなければならぬ人達が居るのも又事実である。これも時代の流れか。

総じて、彼らに言える事は、迫害、差別に苦しんできた、という事実である。そしてそれらは、今も続いているという。それは何故か、彼らの文化を認め、理解する事に欠けているのではないか、我々も含め文明人（と思いきや）は、科学的な機器を使用する文明だけが文化と思っているのではないだろうか。そして、それらの人々に欠けているものは、それこそが彼らの文化ではないだろうか。

最後にアメリカインディアンの古老の詩を、
おまえはわたしに言う、

去年という年に住む老人よ、
昔の歌を歌うご老人よ、
目を覚まして、
現実の世界を見てごらん下さいと。

わたしはおまえに言う
どこにも住んでいない若者よ
雑音しか聞くことのない若者よ、
世界は私の内部で育ってきた。

だからわたしは歳月とともに
に豊かなのだ。
知立 齋藤

折板を斜めに切る

敷地の都合で何時も折板を長方形に取付けられるとは限りません。時には折板を斜めに切る必要がある時があります。折板を斜めに切りたい時、僕なら山と谷のある折板の切りたい寸法を求めるには、折板の上底をチョークで印をつけた後、下底を一ヶ所計算で求め、印をします。次に連続に折板に印を付ける為には、定規を上底のチョークの印に合わせると下底に太陽による定規の影が映りますが、その影と計算で求めた印を頼りに下底に連続して印を付けてゆきます。

西尾 大橋

大相撲 名古屋場所

暑い名古屋場所は横綱曙の優勝で幕をとじた。武双山は大関になって二場所続けて負け越し大関陥落、同部屋の新大関雅山も負け越してしまった。貴ノ浪の大関復帰はならずだが関脇魁皇が大関に昇進し、来場所は武双山が十勝すれば帰る大関と栃東の成績次第では三横綱大関と豪華な上位陣、相撲ファンとしては楽しみになる。

東京の本場所以外はどこか場所を借りてゐるわけだが尾車部屋が豊橋市に部屋をかまえている。今年度、技能検定の日曜日の練習場所を検定補助員をされている坂口氏の作業場をお借りしたら何と作業場の目の前が尾車部屋であった。初めてお相撲さんの稽古を見る機会を得たが稽古の激し

さに圧倒されてしまった。いくら稽古場とはいえ土俵には選ばれた者しか上がれないという雰囲気さえある。血を吐くほど激しい稽古で汗や涙がしみ込んだ土俵には総理大臣の代理や知事とはいえ失礼ながら女性や一般人は真剣勝負している神聖な土俵に上がるべきではないとさえ感じた。

坂口氏のおかげで尾車部屋でチャンコ料理を食べる機会に恵まれた。初めて尾車部屋から関取になった新十両富風関（中日新聞の記事を読んだがお父さんを早く亡くされ、ケガに泣かれた苦勞人）や、私のつたないインタビューに快く答えてくれた幕下西二十六枚目の錦風君、体重が欲しい、体重をふやすのはダイエットより難しいといった舞風君。たった一度だが同じ釜の飯を食った仲？ 袖振った仲？ 不思議なもので技能検定のあ

いだ相撲の話題は富風関はじめとする尾車部屋の力士の成績ばかり。人の縁とはこんなものかもしれない。今場所か

組合員と家族の健康増進に ボーリング大会を開催

平成12年11月11日 シャンピアボウル
名古屋昭和区高辻交差点北
主催 全国保愛知支部

愛知県板金工業組合と全板

国保愛知支部では組合員の高齢化が進むなか、日頃高所作業の多い建築現場のことを忘れ、家族で健康な体力作りを取り組んでもうつためにボーリング大会を企画しました。従業員はじめ家族皆さんの参加をお待ちいたします。昨年度は尾張ブロックが大会運営を行いました。今回は、名古屋ブロックが大会を

らファンになってしまった私。残念ながら富風関、錦風君は負け越してしまつたが秋場所の健闘を願う。 東三 吉田

7月各支部の動き

西支部

- 25日 支部会 6名
- ①保証制度における10年保証について
- ②名古屋板金連合会見学会及びボーリング大会について
- ③尾張名古屋の職人展について

昭和支部
7日 通常会合 16名

- 一宮支部 12日 支部役員会 22名
- 19日 青年部新製品説明会（セキスイ）
- 小牧支部 29日 支部会 10名
- 津島支部 5日 定例会 6名
- 江南支部 15日 例会 4名
- 岡崎支部 2日 青年部技能競技大会 入賞祝賀会（片山匡裕君）

運営いたします。

日時 平成12年11月11日
土曜日 午後6時スタート
場所 シャンピアボウル
名古屋昭和区白金3
名古屋高速高辻出口前
高辻交差点北
参加会費 一名 千円
賞品を多数用意いたします。

中村支部 18日 定例会 11名- 瑞穂支部 1日 支部会 18名
- ①保証制度につき1事業所1物件を依頼
- ②千代田火災より自動車保険の勧め
- ③県板報告

豊田支部 22日 太子講 27名- 8日 第4回役員班長会
- 11日 豊板会ゴルフコンペ 20名
- 29日 技能検定反省会

西尾支部 11日 青年部定例会 13名- 13日 支部役員会 16名
- 15日 定例会 4名
- 知多支部 12日 支部理事会 12名
- 25日 理事組長合同会議 18名

東三支部 3日 定例会 29名- 26日 三役員 6名
- 30日 パソコン勉強会 25名

熱田南支部 23日 ゴルフ大会 8名- 15日 定例会
- 5日 青年部ゴルフコンペ

編集後記

東海地方、今年の梅雨はから梅雨で明けた。七月に入り暫くじめじめした日が続くうち、ある日からガンガンの夏の日が照り付ける真夏日となった。心配された梅雨末期の大雨もなくほっとしたものがあふ。ところでこれまで知多地方の水道は木曾川水系の牧尾ダムから配水されて来た。長良川河口堰が完成してから知多の住民は、青子の発生するような水質の悪い河口堰から取水した臭くてまずい水を飲まされてゐる。近頃「○○の天然水」などペットボトル入りの水がよく売れている様だが、以前から我が家では奥三河の天然水にこだわっている。お茶、御飯、煮物、麵、ゆ等一切この水を使って調理する。特にそのまま飲む水は抜群にうまい。水割りもいい。すべてに一味違う。

二か月毎に二十リットル十個を積んで設楽町まで水を汲みに行くのだが、半年経っても絶対腐らないミネラル豊富な山の自然水は手放せない毎日である。なお水汲み場所は紙面の都合で次回に掲載する。

七月二十七日(木) 晴
三五二号 編集会議
委員 九名 出席
午後五時 終了(S)